vinetur

カリフォルニア州のクラフトビール業界、2027年の最優先課題にプラスチック包装法の改正

CCBAは、クリス・ロジャース州下院議員に改正案を進める後ろ盾があると幹部が述べたことを受け、S.B. 54の見直しを求めている

2026年11月17日（火）



Brewboundの報道とCalifornia Craft Brewers Associationのコメントによると、カリフォルニア州のクラフトビール醸造業者は、州のプラスチック包装法の改正を2027年の最優先の立法課題に掲げている。

CCBAとして知られるこの業界団体は、プラスチック包装を規制するカリフォルニア州の拡大生産者責任法、S.B. 54の改正に取り組んでいる。Brewboundは11月16日、CCBA幹部が2027年に同法の規定を整理するための立法措置を求めていると報じた。

Brewboundによると、同協会のエグゼクティブディレクター、ケルシー・マクエイド＝クレイグ氏は、アーバインで開かれたCCBAのサミットでの「Tap Talk」で、クリス・ロジャース州下院議員が「来年、修正に取り組むことについて議長の確約を得た」と述べた。

報道では、醸造業者が具体的にどの条項の変更を求めているかは明らかにされていない。しかし、他の課題を差し置いてS.B. 54を最優先に据えたことは、カリフォルニア州の飲料業界の重要な一角に、この法律が強い懸念をもたらしていることを示している。

影響はクラフトビールにとどまらない。包装法の改正は、醸造業者やサプライヤーを含め、国内有数の重要な飲料市場であるカリフォルニア州で、プラスチックなど規制対象の包装形態で飲料を販売する企業の遵守義務やコストを変える可能性がある。

カリフォルニア州は包装や環境政策をしばしば先導しており、同州の制度変更は複数の州で事業を展開する企業の計画にも影響を及ぼし得る。飲料メーカーにとって、生産者責任規則の小幅な変更であっても、包装の選択、報告要件、長期的な予算編成に影響する可能性がある。

CCBAの働きかけは、業界団体が同法への幅広い懸念の表明から、州議会を通じて一部条項の改正を目指す、より的を絞った取り組みに移っていることも示唆している。ロジャース氏が取り組みに関与し、議長室も修正に前向きとされるなか、この問題は2027年、サクラメントで重要な企業・規制上の論点となりそうだ。

Brewboundの報道は、アーバインでのイベントでの発言を、同協会がこの法案に政治的な労力を大きく割く方針を示す、これまでで最も明確な兆候として取り上げた。利益率の低さや原材料費の変動にすでに直面している醸造所にとって、この議論の行方は州政治の枠を超えた財務上の影響をもたらす可能性がある。